

2021年度第2回阪神競馬特別レース名解説

<第1日>

○ 君子蘭賞

君子蘭（くんしらん）は、ヒガンバナ科クンシラン属の総称。原産は南アフリカで、日本へは明治時代に伝わった。春にオレンジ色で広漏斗状の花をつける。花言葉は「高貴」「誠実」。

○ 天神橋特別

天神橋（てんじんばし）は、大阪府大阪市にある橋および町名。名は、市民から「天満の天神さん」と呼ばれる大阪天満宮が管理していたことに由来する。難波橋、天満橋とともに浪華三大橋と称され、付近には日本一長い商店街として知られる天神橋筋商店街がある。

○ 毎日杯（GⅢ）

本競走は、昭和29年に創設された重賞競走。創設当初は『東京優駿（日本ダービー）』の直後に実施されていたが、46年に実施時期が3月に繰り上げられた。また、平成19年に実施距離が2000mから1800mへと短縮された。

毎日新聞社は、東京・名古屋・大阪・北九州に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第2日>

○ 四国新聞杯

四国新聞社は、香川県高松市に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 御堂筋ステークス

御堂筋（みどうすじ）は、大阪市北区と中央区の2区を南北に通じる約4kmの幹線道路。名は、本町付近の西側沿いに西本願寺別院の北御堂と、東本願寺別院の南御堂があることに由来し、沿道のイチョウ並木は市のシンボルとなっている。

○ 六甲ステークス（L）

六甲（ろっこう）は、神戸市灘区の地名。兵庫県南東部に位置する六甲山は、周辺の鉢伏山・鉄拐山・石楠花山・摩耶山などと六甲山地を形成し、その最高峰に位置している。冬季を中心に六甲山系から吹き降ろす強い寒風を「六甲嵐（おろし）」と呼び、プロ野球球団「阪神タイガース」の球団歌の通称としてその名が知られている。

<第3日>

○ 三木ホースランドパークジャンプステークス

三木(みき)ホースランドパークは、平成11年に開園した兵庫県三木市にある馬事施設。体験乗馬などを通じて馬を身近に感じられるほか、総合馬術競技場・キャンプ場・研修センターなども併設されている。

○ アザレア賞

アザレア(Azalea)は、ツツジ科の常緑低木。花は大形で、色は桃・紅・白など多彩。台湾の原種がヨーロッパで改良され、その品種は150以上にのぼる。花言葉は「恋の喜び」「自制心」。

○ ラジオ関西賞仲春特別

仲春(ちゅうしゅん)は、陰暦2月の異称。季語や時候の挨拶などに用いられる。ラジオ関西は、兵庫県神戸市に本社を置く放送局。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ コーラルステークス(L)

コーラル(Coral)は、「サンゴ」を意味する英語。サンゴは、サンゴ科サンゴ属の刺胞動物の総称。また、その骨軸。サンゴの中でも深海に生息する硬質のものは古くから宝石として珍重されている。

<第4日>

○ 明石特別

明石(あかし)は、兵庫県南部、明石海峡に面する市。かつては山陽道・四国街道の分岐点の宿駅で、松平氏の城下町であった。東経135度の日本標準時子午線上に明石市立天文科学館がある。

○ 淀屋橋ステークス

淀屋橋(よどやばし)は、大阪市の土佐堀川に架かる橋。名は、江戸時代の豪商「淀屋」に由来する。中之島と船場を結び、御堂筋の一部となっており、国の重要文化財にも指定されている。周辺には企業や大阪市の関係機関のビルが立ち並び、大阪を代表するオフィス街となっている。

○ 大阪杯（G I）

本競走は、昭和 32 年に創設された重賞競走。創設当初は 1800m で実施されていたが、47 年に 2000m となり、56 年に実施時期が 3 月上旬から約 1 ヶ月繰り下げられた。春季競馬における古馬中距離路線の一層の充実を図るため、平成 29 年に G I 競走へ格上げされ、現在に至る。

○ 鳴門ステークス

鳴門（なると）は、徳島県北東部の市。かつては製塩業で発展し、現在は製薬業・養殖業・農業が盛ん。同市の東部に位置する鳴門海峡は、内海側の播磨灘と外洋側の紀伊水道との干満による海面差が大きいいため、潮の流れが速くなり、渦潮が生じることで知られている。

<第 5 日>

○ 千里山特別

千里山（せんりやま）は、大阪府吹田市中西部の地域名。大正時代、日本初の田園都市として千里山住宅地が造成され発展した。関西大学千里山キャンパスがあることでも知られ、学生街としての性格も併せ持つ。

○ 難波ステークス

難波（なんば）は、大阪市中央区から浪速区にまたがる地名。なんば駅を中心とする一帯のこと。道頓堀、千日前などととも「ミナミ」と称される繁華街をなす。

なお、ミナミの中心施設のひとつでもある「なんばパークス」内には、JRA の場外勝馬投票券発売所であるウインズ難波がある。

○ サンケイスポーツ杯阪神牝馬ステークス（G II）

本競走は、昭和 33 年に『阪神牝馬特別』として創設された重賞競走。平成 13 年には、『阪神牝馬ステークス』へと競走名が変更された。創設以来、数回の距離変更を経て 19 年からは 1400m で実施されてきたが、28 年から 1600m に延伸して実施され、『ヴィクトリアマイル』の前哨戦としての位置付けをより色濃くしている。なお、第 1 着馬には同年のヴィクトリアマイルへの優先出走権が与えられる。

サンケイスポーツは、産業経済新聞社より発行されているスポーツ紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第6日>

○ 吹田特別

吹田（すいた）は、大阪市に北接している大阪府中部の市。昭和45年の日本万国博覧会（大阪万博）の開催地。ビール・化学・金属工業等の産業が盛んで、大阪市のベッドタウンとなっている。

○ 忘れな草賞（L）

忘れな草（わすれなぐさ）は、ヨーロッパ原産のムラサキ科の多年草。春に尾状に巻いた花序を出し、青紫色などの小花をつける。花言葉は「真の愛」「私を忘れないで」。

○ 大阪ーハンブルクカップ

本競走は、大阪市と友好都市提携しているドイツ・ハンブルク市と、競馬を通じて国際親善を深める目的で平成9年に創設された交換競走。

ハンブルク（Hamburg）は、ドイツ北西部に位置するドイツ第二の都市。同市にあるハンブルク競馬場では、阪神競馬場との交換競走として『Hanshin Cup』が実施されている。

○ 桜花賞（G I）

本競走は、イギリスの『1000ギニー』に範をとり、昭和14年に『中山4歳牝馬特別競走』として創設された重賞競走。牝馬3冠競走（桜花賞・優駿牝馬・秋華賞）の第一関門となっている。創設当初は中山競馬場の1800mで実施されていたが、22年に京都競馬場へ舞台を移し、実施距離を1600mへ変更したのを機に現在の競走名となった。その後、25年に開催場が阪神競馬場に移され、現在に至る。

なお、第5着までの馬には優駿牝馬（オークス）への優先出走権が与えられる。

○ 梅田ステークス

梅田（うめだ）は、大阪市北区西部の一地区。明治7年に現在のJR大阪駅が開設されてから急速に発展し、JR・阪急電鉄・阪神電車・地下鉄・バスなどが集中する、関西一の大ターミナルとなった。大阪駅、梅田駅周辺には「キタ」と呼ばれる繁華街が広がる。

なお、同地区にはJRAの場外勝馬投票券発売所であるウインズ梅田がある。

<第7日>

○ 千種川特別

千種川（ちくさがわ）は、中国山地を源とし、兵庫県の南西部を流れる川。環境省によって選定された名水百選のひとつ。赤穂市の全給水量のおよそ半分を賄っている。

○ 陽春ステークス

陽春（ようしゅん）は、暖かな春のこと。陰暦正月の異称でもある。

○ アーリントンカップ（GⅢ）（NHKマイルカップトライアル）

本競走は、アーリントンインターナショナル競馬場との交換競走として実施される。平成4年に同競馬場と阪神競馬場が姉妹競馬場として提携し、現在の名称となった。

アーリントンインターナショナル競馬場は、アメリカ合衆国イリノイ州にあり、シカゴの北西に位置する。昭和56年から実施されている『アーリントンミリオン』は、世界で初めて賞金総額が100万ドルとなったレースとして有名。また、同競馬場では阪神競馬場との交換競走として『Hanshin Cup』が実施されている。

なお、第3着までの馬にはNHKマイルカップへの優先出走権が与えられる。

<第8日>

○ 須磨特別

須磨（すま）は、神戸市西部の区名。大阪湾に面する白砂青松の海岸で、古来より明石と並び称される景勝地。須磨関跡や須磨浦公園などが有名。平安時代末期に起きた一ノ谷の戦いの舞台でもある。

○ 心齋橋ステークス

心齋橋（しんさいばし）は、大阪市中央区の街。名は、長堀川を開削した岡田心齋に由来する。心齋橋筋商店街一帯には、百貨店や高級ブランド店などが立ち並び、大阪を代表する繁華街となっている。

○ アンタレスステークス（GⅢ）

本競走は、平成8年に創設された重賞競走。翌9年に京都競馬場へと舞台が移されたが、24年より再び阪神競馬場へ移設され、現在に至る。また、創設当初はハンデキャップ戦であったが、15年より別定重量戦へと負担重量が変更となった。

アンタレス（Antares）は、さそり座のアルファ星で、直径は太陽の約700倍とも推定される赤色超巨星。ギリシャ語で「火星に対するもの」の意。

<第9日>

○ あやめ賞

あやめは、アヤメ科の多年草。日当たりのよい乾燥した草地に自生する。初夏、花茎の先に黄色い筋のある紫または白色の花を咲かせる。アヤメ科には、カキツバタ、シヤガなども含まれる。花言葉は「よい便り」「吉報」。

○ 丹波特別

丹波（たんば）は、旧国名のひとつ。現在の京都府中部と兵庫県東部にあたる。本能寺の変で主君の織田信長を討った明智光秀が領有していたことで知られる。日本六古窯のひとつである丹波立杭焼が有名。

また、兵庫県東部の市。同市は平成16年に氷上郡の柏原・氷上・青垣・春日・山南・市島の6町が合併して誕生した。

○ 京橋ステーキス

京橋（きょうばし）は、寝屋川に架かる大阪市中央区と都島区を結ぶ橋。また、その付近一帯のこと。京橋駅はJR・京阪電鉄・地下鉄が接続するターミナル駅となっており、近隣の再開発地域は大阪ビジネスパークと呼ばれ、超高層ビルや文化施設が建ち並んでいる。

<第10日>

○ 白鷺特別

白鷺（しらさぎ）は、サギ科の中でも白い鳥の総称。日本にはダイサギ・チュウサギ・コサギなどが生息している。世界文化遺産で国宝の姫路城は、その白亜の美しさから「白鷺城」とも呼ばれている。

○ 灘ステーキス

灘（なだ）は、兵庫県南東部、武庫川から旧生田川にかけての大阪湾岸地域の総称。摂津灘とも呼ばれる。西宮市から神戸市にまたがっており、天保11年（1840）に宮水と呼ばれる良質な硬水が発見されて以来、酒造地として知られるようになった。

○ 読売マイルズカップ（GⅡ）

本競走は、マイル路線の拡充を目的として昭和 45 年に創設された重賞競走。安田記念の前哨戦として位置付けられ、春の短距離路線を歩む馬にとって重要な競走となっている。幾度かの変更を経て、平成 24 年より阪神競馬場から京都競馬場に移設され現在に至る。なお、第 1 着馬には同年の安田記念への優先出走権が与えられる。本年は京都競馬場整備工事に伴い、阪神競馬場において実施される。

読売新聞社は、東京・大阪・福岡に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第 11 日>

○ 矢車賞

矢車（やぐるま）は、矢車草の略。ユキノシタ科の多年草。5 枚の小葉が円形に配列された形が特徴。6～7 月頃、花茎の上部に小さな花が円錐状に集まって咲く。

○ ストークステークス

ストークは、コウノトリの英語名。全長 1m ほどで、ツルに似た外観を持つ。首と胴体は白色で、風切り羽は黒色。くちばしは黒色で長く太く、赤色の長い脚を持つ。アジアに分布しているが、現在は絶滅の危機に瀕している。兵庫県の県鳥であり、同県豊岡市にある県立コウノトリの郷公園において保護・増殖が行われている。

○ 天王山ステークス

天王山（てんのうざん）は、京都府と大阪府との境にある山。古来より戦略上の要地として知られ、争奪の舞台となった。天正 10 年（1582）に羽柴秀吉が明智光秀を破った山崎の戦いがある。この故事から、勝負を決する大一番のことを指す比喩としても使われている。

<第 12 日>

○ 蓬莱峡特別

蓬莱峡（ほうらいきょう）は、兵庫県西宮市にある峡谷。六甲断層の断層破碎帯にできた景勝地で、花崗岩の崩れた断崖が形成されている。また、六甲山地の代表的な登山ルートとして広く知られている。

○ 山陽特別

山陽（さんよう）は、山陽地方、または山陽道の略。山陽地方は、本州の瀬戸内海側に位置する地方。瀬戸内海に面し、瀬戸内海式気候が見られる。山陽道は、古代に定められた五畿七道のひとつ。また、山陽自動車道の略称。

○ ウインズ京都開設 70 周年記念端午ステークス

本競走は、ウインズ京都開設 70 周年を記念して実施される。

端午（たんご）は、五節句のひとつ。「端」は初めの意味、「午」は「五」に通じ、「5 月初めの 5 日」という意味。江戸時代以後、男子の節句とされ、鎧や兜を飾り、こいのぼりを立て、成長や立身出世を願った。現在は、国民の祝日「こどもの日」となっている。

○ 天皇賞（春）（G I）

本競走は、明治 38 年 5 月 6 日に横浜の日本レースクラブが、明治天皇から『菊花御紋付銀製花盛器』を下賜され創設した『エンペラーズカップ』を前身とする競走。39 年には東京競馬倶楽部にも御賞典が下賜され、その後、阪神・小倉・福島・札幌・函館の計 7 つの競馬倶楽部で『帝室御賞典競走』が実施された。当初は、各競馬倶楽部が独自の競走条件で実施していたため、競走名こそ同じものの、レースの性格は統一されたものとは言えなかったが、昭和 12 年に各競馬倶楽部が統合されて日本競馬会が誕生したのを機に、『帝室御賞典競走』は春が阪神、秋が東京と、年 2 回東西で実施されることとなり、戦争で中断される 19 年春まで続いた。戦後の 22 年春に『平和賞』の名で復活。同年秋から現在の『天皇賞』に改称され、春は京都、秋は東京で実施されることとなった。本年は京都競馬場整備工事に伴い、阪神競馬場において実施される。

○ 天満橋ステークス

天満橋（てんまばし）は、大阪府大阪市の大川にかかり、北区と中央区を結んでいる橋。江戸時代から天神橋・難波橋と並び浪華三大橋と呼ばれ、市井の人々に親しまれていた。また、天満橋南詰周辺を指す地名でもある。